

# 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈についての一部改正(案) 新旧対照表

○電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について(20130605商局第3号)【別表第十関係】 (下線部分は改正部分)

改正案

別表第十 雑音の強さ  
第 1 章共通事項  
1 適用区分  
1.1 適用章別  
電気用品の各品目について雑音の強さを測定する必要がある場合は、その測定方法及び許容値等は次表の適用章別による。表に記載のない品目、多機能を有する機器、機器の構造上表の適用章別が適切でない場合は、1.2 の取扱いを基に判断する。  
  
別表第四 配線器具 ～ 別表第八 電動力応用機械器具 （略）  
  
別表第八 光源及び光源応用機械器具

電気用品名等		適用章別
政令品名	省令における細部品名等	／基準番号
写真焼付器 ～ 写真引伸機用ランプハウス	(略)	(略)
蛍光ランプ	(一般形)	J55015
	(安定器内蔵形)	
エル・イー・ディー・ランプ		J55015

現 行

別表第十 雑音の強さ  
第 1 章共通事項  
1 適用区分  
1.1 適用章別  
電気用品の各品目について雑音の強さを測定する必要がある場合は、その測定方法及び許容値等は次表の適用章別による。表に記載のない品目、多機能を有する機器、機器の構造上表の適用章別が適切でない場合は、1.2 の取扱いを基に判断する。  
  
別表第四 配線器具 ～ 別表第八 電動力応用機械器具 （略）  
  
別表第八 光源及び光源応用機械器具

電気用品名等		適用章別
政令品名	省令における細部品名等	
写真焼付器 ～ 写真引伸機用ランプハウス	(略)	(略)
蛍光ランプ	(一般形)	6
	(安定器内蔵形)	7
エル・イー・ディー・ランプ		J55015

電気スタンド		<u>J55015</u>
家庭用つり下げ型蛍光灯器具		<u>J55015</u>
ハンドランプ		<u>J55015</u>
庭園灯器具		<u>J55015</u>
装飾用電灯器具		<u>J55015</u>
その他の白熱電灯器具		<u>J55015</u>
その他の放電灯器具	(マグネトロンを使用しないもの)	<u>J55015</u>
	(マグネトロンを使用するもの)	<u>J55011</u>
エル・イー・ディー・電灯器具		<u>J55015</u>
広告灯		7
検卵器		<u>J55015</u>
電気消毒器（殺菌灯）		<u>J55015</u>
家庭用光線治療器	(赤外線ヒーター又はアーク放電によるもの)	5
	(ランプによるもの)	7
充電式携帯電灯		<u>J55015</u>
複写機	(電磁誘導加熱利用のもの)	2 及び 4
	(その他のもの)	4

\*：マグネトロンは I S M 用指定周波数で動作するものとする。

別表第八 電子応用機械器具 (略)

電気スタンド		<u>7</u>
家庭用つり下げ型蛍光灯器具		<u>7</u>
ハンドランプ		<u>7</u>
庭園灯器具		<u>7</u>
装飾用電灯器具		<u>5</u>
その他の白熱電灯器具		<u>7</u>
その他の放電灯器具	(マグネトロンを使用しないもの)	<u>7</u>
	(マグネトロンを使用するもの)	<u>2</u>
エル・イー・ディー・電灯器具		<u>7</u>
広告灯		7
検卵器		<u>7</u>
電気消毒器（殺菌灯）		<u>7</u>
家庭用光線治療器	(赤外線ヒーター又はアーク放電によるもの)	5
	(ランプによるもの)	7
充電式携帯電灯		<u>5</u>
複写機	(電磁誘導加熱利用のもの)	2 及び 4
	(その他のもの)	4

\*：マグネトロンは I S M 用指定周波数で動作するものとする。

別表第八 電子応用機械器具 (略)

別表第八 交流用電気機械器具及び携帯発電機

電気用品名等		適用章別
政令品名	省令における細部品名等	／基準番号
電灯付家具		J55015
コンセント付家具 ～ 携帯発電機	(略)	(略)

備考：表中の＊印は、家具に取り付けられた電気機械器具に適用される章を適用する。

1.2 適用方法

(略)

2 測定装置

測定装置及び測定サイトは、平成 19 年 7 月情報通信審議会答申『無線妨害波およびイミュニティ測定装置の技術的条件』、平成 28 年 10 月情報通信審議会答申『「無線妨害波およびイミュニティ測定装置の技術的条件」第 1 部第 1 編 無線周波妨害波及びイミュニティの測定装置- 測定用受信機 -』、及び平成 28 年 10 月情報通信審議会答申『「無線妨害波およびイミュニティ測定装置の技術的条件」第 1 部第 4 編 無線周波妨害波及びイミュニティの測定装置- 放射妨害波測定用のアンテナと試験場 -』に準拠したものを使用する。

(略)

第 2 章 高周波利用機器

(略)

別表第八 交流用電気機械器具及び携帯発電機

電気用品名等		適用章別
政令品名	省令における細部品名等	
電灯付家具		7
コンセント付家具 ～ 携帯発電機	(略)	(略)

備考：表中の＊印は、家具に取り付けられた電気機械器具に適用される章を適用する。

1.2 適用方法

(略)

2 測定装置

測定装置及び測定サイトは平成 10 年度電気通信技術審議会答申『無線妨害波およびイミュニティ測定装置の技術的条件』に準拠したものを使用する。

(略)

第 2 章 高周波利用機器

(略)

### 第3章 ラジオ受信機及びテレビジョン受信機並びに関連機器等

#### 1 許容値

(略)

#### 2 測定方法

(略)

#### 2.3.8.8 測定方法

(1) ～ (4) 略

付表3－2 負荷条件の個別事項

機器により個別に規定する負荷条件は次の通りとする。本表に規定していない事項は共通事項による。

品 名	負荷条件及び試験条件
音声録音再生機器 (テープレコーダー、CDプレーヤー、レコードプレーヤー、MDレコーダー等)	・適切な媒体又は事前に録音した媒体から供給される 1 kHz の正弦波信号を連続的に再生動作させる。ただし、供試器に録音機能がある場合には、録音媒体をかけ録音状態にして連続的に動作させる。
映像録画再生機器 (ビデオテープレコーダー、DVDプレーヤー等)	・カラーバー信号 (ITU-R 勧告 BT471-1:1994 の規格で定義したテレビジョンカラーバー信号及びパターン (図3-13 参照)) が記録されたテープ/ディスクを使って連続的に再生動作させる。
オーディオ増幅器	・ボリュームを最大位置にし、入力信号 (印加周波数は 1,000Hz (1,000Hz が帯域内にならない場合は、その帯域の可聴中心周波数とする。)) の大きさを調節して、出力信号に波形歪み又はクリッピングが現れ始める時の出力電

### 第3章 ラジオ受信機及びテレビジョン受信機並びに関連機器等

#### 1 許容値

(略)

#### 2 測定方法

(略)

#### 2.3.8.8 測定方法

(1) ～ (4) 略

付表3－2 負荷条件の個別事項

機器により個別に規定する負荷条件は次の通りとする。本表に規定していない事項は共通事項による。

品 名	負荷条件及び試験条件	備一考
音声録音再生機器 (テープレコーダー、CDプレーヤー、レコードプレーヤー、MDレコーダー等)	・適切な媒体又は事前に録音した媒体から供給される 1 kHz の正弦波信号を連続的に再生動作させる。ただし、供試器に録音機能がある場合には、録音媒体をかけ録音状態にして連続的に動作させる。	J55013
映像録画再生機器 (ビデオテープレコーダー、DVDプレーヤー等)	・カラーバー信号 (ITU-R 勧告 BT471-1:1994 の規格で定義したテレビジョンカラーバー信号及びパターン (図3-13 参照)) が記録されたテープ/ディスクを使って連続的に再生動作させる。	J55013
オーディオ増幅器	・ボリュームを最大位置にし、入力信号 (印加周波数は 1,000Hz (1,000Hz が帯域内にならない場合は、その帯域の可聴中心周波数とする。)) の大きさを調節して、出力信号に波形歪み又はクリッピングが現れ始める時の出力	J55013

		力（以下「クリッピング出力」という。）を求める。その後クリッピング出力の 1/8 になるように調節する。			電力（以下「クリッピング出力」という。）を求める。その後クリッピング出力の 1/8 になるように調節する。	
	電子楽器及び電気楽器	・音階 C（ド'）の音（約 523Hz）を発生させる鍵を押す。又、疑義が生じない場合には、供試器にデモ演奏あるいはオートリズム等の機能が内蔵されているものを使用することができる。供試器自身にこれらの機能がないものは、1kHz の正弦波を外部より印加する。		電子楽器及び電気楽器	・音階 C（ド'）の音（約 523Hz）を発生させる鍵を押す。又、疑義が生じない場合には、供試器にデモ演奏あるいはオートリズム等の機能が内蔵されているものを使用することができる。供試器自身にこれらの機能がないものは、1kHz の正弦波を外部より印加する。	J55013

2.4 雑音電力（関連機器等）～ 2.5 その他  
(略)

第 4 章 デジタル技術応用機器

1 許容値 ～ 2 測定装置  
(略)

3 測定場所

測定場所は、周囲雑音レベルが規定の許容値より少なくとも、6dB 低くなければならない。ただし、周囲雑音と妨害源からの放射が混在した状態で規定の許容値を超えない場合は、この限りではない。

4 供試器の配置

(1) 雑音電界強度（供試器外に放射される漏洩電波の電界強度）の測定

自然の大地面上に金属面を置き、その上に供試器を置くこと。この場合、供試器の底面支持部と金属的に接触しないこと。この金属面は図 4－1 に示すように

		電力（以下「クリッピング出力」という。）を求める。その後クリッピング出力の 1/8 になるように調節する。			電力（以下「クリッピング出力」という。）を求める。その後クリッピング出力の 1/8 になるように調節する。	
	電子楽器及び電気楽器	・音階 C（ド'）の音（約 523Hz）を発生させる鍵を押す。又、疑義が生じない場合には、供試器にデモ演奏あるいはオートリズム等の機能が内蔵されているものを使用することができる。供試器自身にこれらの機能がないものは、1kHz の正弦波を外部より印加する。		電子楽器及び電気楽器	・音階 C（ド'）の音（約 523Hz）を発生させる鍵を押す。又、疑義が生じない場合には、供試器にデモ演奏あるいはオートリズム等の機能が内蔵されているものを使用することができる。供試器自身にこれらの機能がないものは、1kHz の正弦波を外部より印加する。	J55013

2.4 雑音電力（関連機器等）～ 2.5 その他  
(略)

第 4 章 デジタル技術応用機器

1 許容値 ～ 2 測定装置  
(略)

3 測定場所

測定場所は、周囲雑音レベルが規定の許容値より少なくとも、6dB 低くなければならない。ただし、周囲雑音と妨害源からの放射が混在した状態で規定の許容値を超えない場合は、この限りではない。

(備考)J55022 に定められたオープンテストサイト及び代替テストサイト(例として、電波暗室)は、本規定による測定場所に該当する。

4 供試器の配置

(1) 雑音電界強度（供試器外に放射される漏洩電波の電界強度）の測定

自然の大地面上に金属面を置き、その上に供試器を置くこと。この場合、供試器の底面支持部と金属的に接触しないこと。この金属面は図 4－1 に示すように

供試器の周辺及び測定用アンテナよりも少なくとも 1m は外側に広がっていること。この金属面には測定周波数において無視できないような欠陥やすき間のないこと。

床上に設置するように設計されている供試器にあつては、金属面にできるだけ近く置くこと。また可搬形装置にあつては、金属面上 0.8m の非金属製の台の上に置くこと。

(略)

## (2) 雑音端子電圧（電源端子に誘起される高周波電圧）の測定

接地を必要としない形式の供試器及び床上に設置しない形式の供試器の場合には、少なくとも  $2\text{m} \times 2\text{m}$  の水平金属面からなる基準面から 0.4m の高さに置き、その基準面以外のあらゆる金属面から少なくとも 0.8m 離しておくこと。シールド室内の金属製壁面などの垂直金属面を基準面とする場合は、その広さは少なくとも  $2\text{m} \times 2\text{m}$  とし、供試器はその基準面から 0.4m 離し、他の金属面（床面及び他の壁面など）から 0.8m 以上離して置くこと。

床上に設置する供試器については、上記と同じ規定を適用するか、通常の使用条件と一致するように床上に置くこと。この場合の床面金属面でもかまわないが、供試器の底面支持部と金属面に接触しないこと。

なお、擬似電源回路網の基準接地点は、基準面に接地すること。また、供試器の端と擬似電源回路網の一番近い面までの距離が 0.8m となるように供試器を図 4-3 に示すように設置すること。

## 5 供試器の動作状態

### 5.1 共通事項

供試器を典型的な使用状態とする。

供試器の周辺及び測定用アンテナよりも少なくとも 1m は外側に広がっていること。この金属面には測定周波数において無視できないような欠陥やすき間のないこと。

床上に設置するように設計されている供試器にあつては、金属面にできるだけ近く置くこと。また可搬形装置にあつては、金属面上 0.8m の非金属製の台の上に置くこと。

~~（備考）雑音電界強度の測定について、上記規定を補足する目的で J55022 の該当する規定を準用する。~~

(略)

## (2) 雑音端子電圧（電源端子に誘起される高周波電圧）の測定

接地を必要としない形式の供試器及び床上に設置しない形式の供試器の場合には、少なくとも  $2\text{m} \times 2\text{m}$  の水平金属面からなる基準面から 0.4m の高さに置き、その基準面以外のあらゆる金属面から少なくとも 0.8m 離しておくこと。シールド室内の金属製壁面などの垂直金属面を基準面とする場合は、その広さは少なくとも  $2\text{m} \times 2\text{m}$  とし、供試器はその基準面から 0.4m 離し、他の金属面（床面及び他の壁面など）から 0.8m 以上離して置くこと。

床上に設置する供試器については、上記と同じ規定を適用するか、通常の使用条件と一致するように床上に置くこと。この場合の床面金属面でもかまわないが、供試器の底面支持部と金属面に接触しないこと。

なお、擬似電源回路網の基準接地点は、基準面に接地すること。また、供試器の端と擬似電源回路網の一番近い面までの距離が 0.8m となるように供試器を図 4-3 に示すように設置すること。

~~（備考）雑音端子電圧の測定について、上記規定を補足する目的で J55022 の該当する規定を準用する。~~

## 5 供試器の動作状態

### 5.1 共通事項

供試器を典型的な使用状態とする。



ミシン用コントローラ	ミシンを負荷とする。 ・布及び縫糸は用いずに 最高速度で連続的に動作させる。	・ミシン用コントローラは、その操作を～ (以下省略)		ミシン用コントローラ	ミシンを負荷とする。 ・布及び縫糸は用いずに 最高速度で連続的に動作させる。	・ミシン用コントローラは、その操作を～ (以下省略)	J55014-1(H20) <del>7.2.3.1</del> 及び 7.3.1.15
(略)	(略)		(略)	(略)	(略)		(略)
電気温風機	・最大風量とする。なお冷風時、温風時で測定する。			電気温風機	・最大風量とする。なお冷風時、温風時で測定する。		J55014-1(H20) <del>7.3.4.14</del>
(略)	(略)		(略)	(略)	(略)		(略)
電気掃除機	イ)測定条件 a)ホースは器体の周りに置く。 b)付属するホース及び集塵フィルター(目詰まりの無い初期状態)を取りつけ最大風量を得られる配置にセットする。 (以下省略)			電気掃除機	イ)測定条件 a)ホースは器体の周りに置く。 b)付属するホース及び集塵フィルター(目詰まりの無い初期状態)を取りつけ最大風量を得られる配置にセットする。 (以下省略)		J55014-1(H20) <del>7.3.1.1</del>
電気床磨き機	・無負荷とする。			電気床磨き機	・無負荷とする。		J55014-1(H20) <del>7.3.1.2</del>
電気靴磨き機	・無負荷とする。			電気靴磨き機	・無負荷とする。		J55014-1(H20) <del>ZA.1.1</del>
電気洗濯機	イ)水を入れ布地なしで動作させる。 ロ)給水の温度は製造者の説明書に従うものとする。  ハ)サーモスタットがある場合は～ (以下省略)			電気洗濯機	イ)水を入れ布地なしで動作させる。 ロ)給水の温度は製造者の説明書に従うものとする。  ハ)サーモスタットがある場合は～ (以下省略)		J55014-1(H20) <del>7.3.1.10</del>



電気脱水機	・無負荷とする。(水、布地なし)		電気脱水機	・無負荷とする。(水、布地なし)	<del>J55014-1(H20)</del> <del>ZA.1.2</del> <del>メインスイッチのみ</del> <del>のものを除く。</del>
電気ポンプ	イ) 通常使用する液体を通して行う。 ロ) 電氣的に流量を制御するものにあつては、流量調整範囲の中で最も不利なところに置くものとする。 ハ) もしプログラム制御によって不連続性雑音を発生するときは、不連続性雑音の発生が最も好ましくない、プログラムについて行うものとする。		電気ポンプ	イ) 通常使用する液体を通して行う。 ロ) 電氣的に流量を制御するものにあつては、流量調整範囲の中で最も不利なところに置くものとする。 ハ) もしプログラム制御によって不連続性雑音を発生するときは、不連続性雑音の発生が最も好ましくない、プログラムについて行うものとする。	<del>J55014-1(H20)</del> <del>ZA.1.3</del>
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電気冷蔵庫 電気冷凍庫	・庫内に食品、水等の負荷を入れないで扉を閉め、周囲温度 30±5℃において運転する。測定は貯蔵室部の温度が安定したのち行うものとする。(霜取中は除外する。) 温度調節装置は製造業者の指示する通常の使用状態の位置に設定し、指示のない場合は調節目盛範囲の中間に設定する。係数 0.5		電気冷蔵庫 電気冷凍庫	・庫内に食品、水等の負荷を入れないで扉を閉め、周囲温度 30±5℃において運転する。測定は貯蔵室部の温度が安定したのち行うものとする。(霜取中は除外する。) 温度調節装置は製造業者の指示する通常の使用状態の位置に設定し、指示のない場合は調節目盛範囲の中間に設定する。係数 0.5	<del>J55014-1(H20)</del> <del>7.3.1.9</del>
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電気缶切機	・無負荷とする。		電気缶切機	・無負荷とする。	<del>J55014-1(H20)</del> <del>ZA.1.7</del>

電気食品切断機 〔 電気肉ひき機 電気肉切り機 電気パン切り機	・無負荷とする。		電気食品切断機 〔 電気肉ひき機 電気肉切り機 電気パン切り機	・無負荷とする。	J55014-1(H20) ZA.1.8
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電気食器洗機	イ) 水を入れ、皿を入れずに動作させる。 ロ) 給水の温度は製造者の説明書に従うものとする。 ハ) サーモスタットのある場合はプログラムで設定する最高温度か、又は 90℃のどちらか低い方に調節(±10℃)しなければならない。 ニ) プログラムの最長サイクルによりクリック率N を決定する。		電気食器洗機	イ) 水を入れ、皿を入れずに動作させる。 ロ) 給水の温度は製造者の説明書に従うものとする。 ハ) サーモスタットのある場合はプログラムで設定する最高温度か、又は 90℃のどちらか低い方に調節(±10℃)しなければならない。 ニ) プログラムの最長サイクルによりクリック率N を決定する。	J55014-1(H20) 7.3.1.11
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電気グラインダー	・無負荷で連続運転する。		電気グラインダー	・無負荷で連続運転する。	J55014-1(H20) 7.3.2.2
電気サンダー	・無負荷で連続運転する。		電気サンダー	・無負荷で連続運転する。	J55014-1(H20) 7.3.2.2
電気ポリッシャー	・無負荷で連続運転する。		電気ポリッシャー	・無負荷で連続運転する。	(床みがき機はここには含まない。) J55014-1(H20) 7.3.2.2

電気金切り盤 電気ハンドシャワー 電気みぞ切り機 電気チューブクリーナー — 電気タッパー	・無負荷で連続運転する。		電気金切り盤 電気ハンドシャワー 電気みぞ切り機 電気チューブクリーナー — 電気タッパー	・無負荷で連続運転する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.2</del>
電気ドリル	・無負荷で連続運転する。		電気ドリル	・無負荷で連続運転する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.2</del>
電気かんな	・無負荷で連続運転する。		電気かんな	・無負荷で連続運転する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.2</del>
電気のこぎり	・無負荷で連続運転する。		電気のこぎり	・無負荷で連続運転する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.2</del>
電気スクレードライバ — 電動ナットランナー	イ) 無負荷で連続運転する。 ロ) 2つの回転方向で使用可能ならば各方向について観測を行う。この場合、それぞれの方向で測定前に 15 分間ならし運転を行う。		電気スクレードライバ — 電動ナットランナー	イ) 無負荷で連続運転する。 ロ) 2つの回転方向で使用可能ならば各方向について観測を行う。この場合、それぞれの方向で測定前に 15 分間ならし運転を行う。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.2</del>
電気ハンマー 電気ハンマードリル	・無負荷で連続運転する。 この場合、できれば振動部分を取り外して動作させること。振動部分を取り外したための回転数等の変化は <u>電源電圧を下げ</u> て補償する。		電気ハンマー 電気ハンマードリル	・無負荷で連続運転する。 この場合、できれば振動部分を取り外して動作させること。振動部分を取り外したための回転数等の変化は <u>これを</u> 補償する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.2</del>
電気噴霧機	・水を負荷とし、連続運転する。		電気噴霧機	・水を負荷とし、連続運転する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.2.8</del>
電気草刈機 電気刈込み機	・無負荷で連続運転する。		電気草刈機 電気刈込み機	・無負荷で連続運転する。	<del>J55014-1(H20)- 7.3.1.19 (電気草刈機) 7.3.2.2</del>

						(電気刈込み機)	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
電気マッサージ器	イ) 無負荷とする。 ロ) 電熱装置を有するものにあつては、これを最大負荷にセットして負荷を入れた場合と入れない場合とについてそれぞれ測定を行う。		別表第八	電気マッサージ器	イ) 無負荷とする。 ロ) 電熱装置を有するものにあつては、これを最大負荷にセットして負荷を入れた場合と入れない場合とについてそれぞれ測定を行う。		J55014-1(H20) 7.3.1.6 及び別表第八
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電動タイプライター	・もし可能ならば電動機はスイッチ雑音によって影響されない安定した読みを妨害波測定器に与えるに充分な時間間隔で運転される。	・1分間に少なくとも 30 回の起動を伴う間欠運転をする。毎分 30 回の起動ができない場合は毎分の起動を実行可能な限り多くした間欠運転が採用されなければならない。 係数 1.0		電動タイプライター	・もし可能ならば電動機はスイッチ雑音によって影響されない安定した読みを妨害波測定器に与えるに充分な時間間隔で運転される。	・1分間に少なくとも 30 回の起動を伴う間欠運転をする。毎分 30 回の起動ができない場合は毎分の起動を実行可能な限り多くした間欠運転が採用されなければならない。 係数 1.0	J55014-1(H20) 7.3.1.16.1 (電動タイプライター)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
毛髪乾燥機	・アタッチメントは外して測定を行う。	・風量調節装置を有するものにあつては、その風量調節装置のスイッチを最小風量にセットする。	別表第八	毛髪乾燥機	・アタッチメントは外して測定を行う。	・風量調節装置を有するものにあつては、その風量調節装置のスイッチを最小風量にセットする。	J55014-1(H20) 7.3.1.8 別表第八
電気乾燥機	・被乾燥物がなくても動作可能な場合は被乾燥物を用いない。			電気乾燥機	・被乾燥物がなくても動作可能な場合は被乾燥物を用いない。		J55014-1(H20) ZA.2.20

(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電気芝刈機	イ) 無負荷で連続運転する。 ロ) 車輪その他により芝刈り作業時の姿勢が容易に決まるものにあつてはその姿勢で試験台上に置く。		電気芝刈機	・車輪その他により芝刈り作業時の姿勢が容易に決まるものにあつてはその姿勢で試験台上に置く。	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電動ミシン	・布及び縫糸は用いずに最高速度で連続的に動作させる。 ・ミシン用コントローラは、その操作を、始動については、5 秒間で“開(停止)”位置から最高速度を与える“閉”位置にする。また停止については、直ちに“開(停止)”位置にすること。 ・始動動作から次の始動動作までの時間は 15 秒とする。 係数 1 ・短時間定格のものにあつては表示された時間内で測定するものとし継続して測定する場合には十分な冷却時間を与えるものとする。		電動ミシン	・布及び縫糸は用いずに最高速度で連続的に動作させる。 ・ミシン用コントローラは、その操作を、始動については、5 秒間で“開(停止)”位置から最高速度を与える“閉”位置にする。また停止については、直ちに“開(停止)”位置にすること。 ・始動動作から次の始動動作までの時間は 15 秒とする。 係数 1 ・短時間定格のものにあつては表示された時間内で測定するものとし継続して測定する場合には十分な冷却時間を与えるものとする。	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
直流電源装置	イ) 電池充電用にあつては、50%放電状態の定格容量の電池を負荷とする。 ロ) 電池充電用以外のものは、定格容量になる白熱電		直流電源装置	イ) 電池充電用にあつては、50%放電状態の定格容量の電池を負荷とする。 ロ) 電池充電用以外のものは、定格容量になる白熱電	

	球、または、抵抗を負荷とする。  (備考)負荷制御方式により上記の負荷では、定格2次電 流に等しい電流が得られないものにあつては、使用を 想定する機器を負荷とすることができる。	
--	--	--

付録 電気冷房機試験条件  
(省略)

第6章 蛍光ランプ  
(省略)

第7章 照明器具等

1 許容値  
( (1) (イ) (ロ) 省略)

1.1 雑音電力の許容値

周波数範囲 (MHz)	雑音電力 (dB)
30 以上 300 以下	55

(注)1. dB は 1pW を 0dB として算出した値とし、準尖頭値とする。

2. 半導体素子を内蔵する制御装置については、装置内部の動作周波数又は  
クロック周波数が 9 k Hz を超えないならば、雑音電力の許容値は適用し  
ない。

	球、または、抵抗を負荷とする。  (備考)負荷制御方式により上記の負荷では、定格2次電 流に等しい電流が得られないものにあつては、使用を 想定する機器を負荷とすることができる。	
--	--	--

付録 電気冷房機試験条件  
(省略)

第6章 蛍光ランプ  
(省略)

第7章 照明器具等

1 許容値  
( (1) (イ) (ロ) 省略)

1.1 雑音電力の許容値

周波数範囲 (MHz)	雑音電力 (dB)
	別表第四、八 共通事項
30 以上 300 以下	55

(注)1. dB は 1pW を 0dB として算出した値とし、準尖頭値とする。

2. 半導体素子を内蔵する制御装置については、装置内部の動作周波数又は  
クロック周波数が 9 k Hz を超えないならば、雑音電力の許容値は適用し  
ない。

## 1.2 雑音端子電圧の許容値

### (1) 連続性雑音端子電圧の許容値

次のいずれかの方法により適合すること。

50Ω/50μH・V 形擬似電源回路網による方法

周波数範囲 (MHz)	電源端子に誘起する雑音端子電圧 (dB)
0.5265 以上 5 以下	56
5 を超え 30 以下	60

(注) dB は 1μV を 0dB として算出した値とし、準尖頭値とする。

(以降 省略)

## 1.2 雑音端子電圧の許容値

### (1) 連続性雑音端子電圧の許容値

次のいずれかの方法により適合すること。

50Ω/50μH・V 形擬似電源回路網による方法

周波数範囲 (MHz)	電源端子に誘起する雑音端子電圧 (dB)
	別表第四、八 共通事項
0.5265 以上 5 以下	56
5 を超え 30 以下	60

(注) dB は 1μV を 0dB として算出した値とし、準尖頭値とする。

(以降 省略)